

報道各社御中

環境省広報室

北海道での高病原性鳥インフルエンザ発生に伴う
野鳥緊急調査チームによる調査の結果について（H29.1.7 17:00）

北海道白老郡白老町において12月20日に回収されたオナガガモ1羽から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されたことを受けて、1月6日（金）～7日（土）に野鳥緊急調査チームを現地に派遣し、現地の野鳥の生息状況や死亡野鳥などの調査を実施しましたので、以下のとおり結果をお知らせします。

1 調査結果

1月6日～1月7日にかけて、北海道白老郡白老町の発生地点周辺半径10km圏内の野鳥監視重点区域内及びその周辺の、渡り鳥の飛来地等の計11地点（1地点は10キロ圏外）において生息状況調査、死亡野鳥調査等を実施。野鳥の大量死等の異常は認められなかった。

北海道による調査期間内に野鳥監視重点区域内で検査対象となる死亡個体の回収等の異常はなかった。

（参考）

観察された鳥類 36種

うち、リスク種1 3種（キンクロハジロ、オオハクチョウ、オジロワシ）

リスク種2 7種（マガモ、スズガモ、カンムリカイツブリ等）

リスク種3 15種（オオセグロカモメ、カモメ、ホオジロガモ等）

*本調査結果は暫定値です。

*リスク種とは：「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」において、感染して死亡しやすい種を中心に設定

2 今後の対応

野鳥監視重点区域において、北海道と連携し、引き続き野鳥の監視を実施。

環境省はホームページで野鳥における高病原性鳥インフルエンザに関する様々な情報を提供しています。（http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/）

平成29年1月7日（土）

自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室

公用携帯：090-8940-8582

公用携帯：080-2333-6933

公用携帯：080-2163-3236

企画官：東岡 礼治

鳥獣専門官：根上 泰子

北海道地方環境事務所野生生物課

直通：011-299-1954

課長：田口 和哉

課長補佐：平井 和登